
3 2 番目の夏と 1 7 歳の彼女

あしか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

32番目の夏と17歳の彼女

【Nコード】

N7843A

【作者名】

あしか

【あらすじ】

ねえ、もう一度、17の頃に戻りたいって思う？空港へ向かう車の中で、彼女はこんな風に切り出した。

ねえ、もう一度17の頃に戻りたいって思う？

32番目の夏、私は17歳の女の子を車で空港まで送り届けようとしていた。

彼女とは、いままでに3回、一緒に食事をしたり、映画を見たりした。

彼女とは友達だった、愛人というには彼女はあまりに若すぎたし、恋人というには私は……あまりに歳を取り過ぎていた。

32歳という年齢はそれほど歳を取りすぎていた、というほどの年齢ではないのだけれど、それほどまでに彼女は若かった。

つまり、私と彼女の間には15年の時間が眠っていて、それは決して短い時間ではないということだった。

空港までの道は、とても混み合っていた。それはきつと、今日が2006年真夏の2時30分で、しかも隣に彼女がいたからだ。もし、私一人だったのなら、もう空港に到着していただろう。でも、今空港へ行かなければならないのは私ではなく彼女で、彼女は17歳だった。

車は一分に5メートルしか進まなかった。だから、空港までは、気が遠くなるほどの時間がかかった。

その長い時間の退屈を、私と彼女は世間話をして潰した。でも、その時間はあまりにも長すぎた。

そして、5分ほどの沈黙の後、彼女はこう切り出したのだった。

ねえ、もう一度17の頃に戻りたいって思う？

私は少し考えた後、こう答えた。

思わない。それにそんなことはできないよ。

すると彼女は不思議そうな顔をしてこう言った。

どうして？

私はその質問にこう答えた。

私は私でしかないし、君は君でしかないからだよ。

彼女は不思議そうな顔のままだ。

つまりさ、朝、目を覚ましながら眠ることはできないし、真昼の太陽を眺めながら深夜の月を見つけることもできない、それと同じように、大人でありながら、若くなることもできない……なんだか変な話だけどね。

彼女は不思議そうな顔のまま、こう言った。

ふうん。

そしてまた沈黙が私と彼女を包んだ。でもそれは暑い夏の真昼に吹く涼しい風のような沈黙だった。

ねえ、もう一度、17の頃に戻りたいって思う？

そんな言葉が、私の中で響いている。

車は少しずつ進み始めた。もうしばらくすれば、私と彼女は空港

に辿り着くだろう。予定の便の時間には遅れてしまったけれど、その次の便がやってくれば、それに乗って彼女はどこか遠いところへ行ってしまっただろうな……。

もし、私が32番目の夏と一緒に17番目の夏を迎えて、彼女と一緒に飛行機に乗ることができたらどんなに良いだろう……。しかし、私の17番目の夏は、もう15年前に、小走りに過ぎ去ってしまった。

いまは、32番目の夏でしかない。

私は彼女を送り届けた後、家に帰って、冷たいビールを飲むだろう……。

私はそんなことを考えながら、空港へ車を走らせた。
隣では、彼女の小さな寝息が聞こえた。

(後書き)

拙い文章ですが、楽しんで読んで頂けたなら、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7843a/>

32番目の夏と17歳の彼女

2010年10月31日04時51分発行